

養護教諭の専門職的自律性と校内巡視との関連性について

長瀬 仁美 (G170006)

指導教員：土田 満

キーワード：養護教諭、専門職的自律性、校内巡視

はじめに

養護教諭は多くの場合学校では一人職であり、新任時から専門職としての責任ある判断が求められる。森は¹⁾、専門職性を身に付けている当事者として、自律性を発揮することを求めている。養護教諭は日々の実践や活動を強みにして自律性を高めていくことが重要であるにも関わらず、養護教諭の自律性に関する研究はそれ程多くはない。

一方、養護教諭の役割の一つとして健康相談における「気付き」が重要視されている。校内巡視は、環境の安全や衛生状況を把握し、教室の様子を観察して子どもを理解し、保健室等での対応に活かすことができる気づきの手段の一つである²⁾。校内巡視の実施の有無や回数、方法等は自己裁量に任されているが、校内巡視は養護教諭自身の児童生徒や他の教職員、学校に対する願い等が反映された自律的活動であると考えられる³⁾。校内巡視に関する報告は殆ど見当たらない。

以上の背景を踏まえ、養護教諭の専門職的自律性と校内巡視の現状と関連性を明らかにすることにより、校内巡視の意義を再考する手がかりとしたい。

方法

1. 対象及び調査期間

A県内養護教諭研修会終了後に調査票 349 枚を配布し、後日郵送により回収した。調査期間は 2018 年 7 月 30 日～9 月 7 日である。

2. 調査内容及び分析方法

対象者の属性、研修等の機会、職務満足感尺度、養護教諭の専門職的自律性尺度、校内巡視の状況及び考え方から構成した。

専門職的自律性尺度⁴⁾は、5 領域（裁量領域、協働領域、変革領域、職業的精神領域、成熟性領域）で因子分析を行ない、抽出した下位因子に命名して解析に用いた。

分析には、IBM SPSS Statistics ver24.0 と IBM SPSS AMOS ver. 24 を用いた。

結果

郵送にて 147 枚を回収し、そのうち欠損値がない 133 名（小学校 81 名、中学校 52 名）を分析対象者とした。有効回答率は 38.1%であった。

専門職的自律性を構成する質問項目の平均値は、ほとんどが 3.5～4 点以上（5 点満点）の高得点であった。最も低かった項目は、2 点台の「自分の仕事上の将来設計を作り、定期的に見直している」であった。

検討1. 専門職的自律性因子と種々の要因との関連

1. 属性との関連

裁量領域では、下位因子である「変化の予測と判断」「仕事の計画性」「個別・集団の特性の理解」が小学校で有意に高い傾向があった。「仕事の評価と修正」は 50 代以上が 20 代より有意に高く、「必要な支援の把握と行動」は 50 代以上と 40 代が 20 代より有意に高かった。

領域別の合計点を三分位で群分けして検討した結果、裁量領域、協働領域、変革領域で、「養護教諭への助言や相談の機会」は H 群が L 群より有意に多かった。

2. 職務満足感との関連

裁量領域、協働領域、変革領域、職業的精神領域では、職務満足感の全ての項目に有意差が認められ、H 群、M 群が L 群より、あるいは H 群が L 群より有意に高かった。成熟性領域では、「養護教諭になってよかったと思う」の項目を除き、有意差や有意傾向があった。

検討2. 校内巡視と種々の要因との関連

1. 実施状況

毎日実施している者は、小学校で 74.1%と中学校の 55.8%より有意に多く、約 7 割が始業前から朝の会までに行っていた。小学校では健康観察、中学校では日常点検が多かった。記録は 3 割に満たなかった。

2. 日常点検との関連

日常点検 18 項目のうち、4 項目が小学校で、3 項目が養護助教諭で、2 項目は勤務年数が 6 年以下で 31 年以上より有意に良く実施していた。校内巡視の実施頻度の高い者が多くの項目を良く実施していた。

3. 実施頻度と校内巡視の考え方との関連

「養護教諭が行う校内巡視は重要である」「校内巡視を日常職務として捉えている」「養護教諭が行う校内巡視の意義を管理職は理解すべきである」「校内巡視を行うことにより学校の安全や衛生状態を保つことができる」「校内巡視は子供たちの豊かな情操を陶冶することにつながる」の項目は、実施頻度H群がM群、L群より有意に重要視していた。

4. 実施頻度と関連要因の重回帰分析

専門職的自律性裁量領域の下位因子である「個別・集団の特性の理解」、職務満足感の「養護教諭になってよかったと思う」、校内巡視の考え方「校内巡視を日常職務として捉えている」、校内巡視実施項目の「健康観察」の4因子が採択された ($R^2=0.373, p<0.05$)。

検討3. 専門職的自律性と校内巡視との関連

1. 専門職的自律性因子と校内巡視実施頻度との関連

裁量領域の3因子に実施頻度間の有意差が認められた。「仕事における計画性」「個別・集団の特性の理解」「必要な支援の把握と行動」は、H群、M群がL群より、あるいはH群がL群より有意に高かった。

2. 専門職的自律性因子と日常点検との関連

職業的精神領域の自律性因子は、日常点検18項目のうち17項目において有意差が認められ、H群がM群とL群、あるいはL群より、有意に実施していた。

3. 専門職的自律性と校内巡視の考え方との関連

職業的精神領域の自律性因子は、校内巡視の考え方の全項目に有意差が認められ、H群がM群とL群、あるいはL群より、その考え方を有意に重要視していた。

検討4. 専門職的自律性と校内巡視の関係

共分散構造分析の結果(図1)、専門的自律性の変革領域の因子である「課題解決のための主体的な行動」

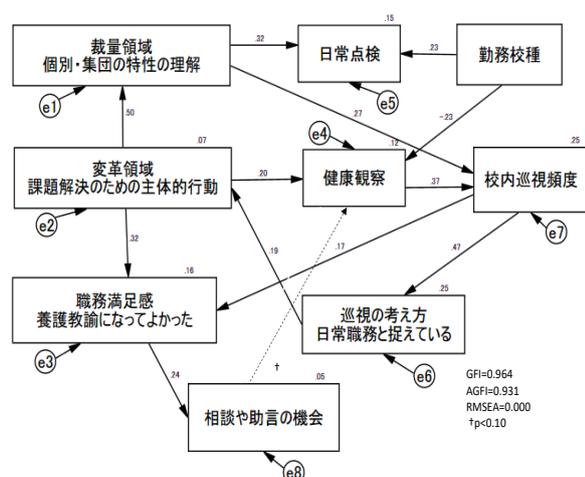


図1 専門職的自律性と校内巡視の関係が、裁量領域の「個別・集団の特性の理解」を介して

校内巡視頻度に影響していた。また、校内巡視頻度は、校内巡視の考え方の「校内巡視を日常職務として捉えている」に影響し、「課題解決のための主体的な行動」に循環するような関係性が認められた。一方、変革領域の「課題解決のための主体的な行動」と校内巡視頻度は職務満足感「養護教諭になってよかった」に影響を与え、「相談や助言の機会」にも影響していた。

検討5. 校内巡視で大切にしていることの自由記述

KJ法により314のコードを作成し、最終的に【子供たちが過ごす学校環境をより良くすること】【子供たちの心身の変化に気付くこと】【子供たちの日常生活の場面を見ること】【子供や教職員との関係づくり】【養護教諭だからできること】の категорияが生成された。

考察

1. 養護教諭の専門職的自律性

本調査では、専門職的自律性の裁量領域の下位因子である「仕事の評価と修正」等、経験を要する因子は、勤務年数や年代の高い者の得点が高かった。大谷ら⁵⁾は経験により着実に向上していく力量として、健康問題を判断する、問題解決に取り組む等の力量をあげており、本調査結果も概ねこれを支持するものであった。専門的自律性が高い者において、「養護教諭への相談・助言の機会」が多かった。また、全領域の自律性が高い者において、職務満足感も高かった。自ら考え行動していくことが、同職者との機会を増やし、職務への意欲を高めている可能性が推察される。

2. 校内巡視の実施頻度から垣間見える養護教諭の姿

実施頻度が高い養護教諭は、校内巡視を日常職務であると考えより発展的に捉えていることが示唆される。重回帰分析からは校内巡視により子供の特性を理解し、必要な支援を把握しようとしている姿が推察される。

3. 専門職的自律性と校内巡視の関係

主体的に改善し、子供たちをより深く理解しようとする自律性が、校内巡視により更に高まるような好循環が推察される。また、校内巡視は、養護教諭の充実感をもたらしており、校内巡視を日常的に実施する重要性が示唆される。今後は、校内巡視と関連する要因について検討を重ねていきたい。

参考文献

- 1) 森昭三:変革期の養護教諭,大修館書店,234,2002
- 2) 大谷尚子,他:東山書房,78-84,2015
- 3) 斎藤ふくみ,他:茨城大学教育実践研究,28,2009
- 4) 籠谷恵,他:学校保健研究,57,15-128,2015
- 5) 大谷尚子,他:茨城大学教育学部紀要,33,1984